

KSKQ

ゆうとおん

通信

NO.121

2021年7月号

郵便振り込み口座 00910-9-106532

編集人 (社福) ゆうとおん通信 編集委員会 八尾市久宝園 2-30-4

一九九一年 九月三日

第三種郵便物承認

毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行 定価50円



松浦 志津香 (まつうら しずか)

1988年7月27日生まれ。32歳。

八尾支援学校高等部卒業後、ゆうとおんへ。

現在は「ゆうとおんうえーぶクッキー班」に在籍し製菓の仕事に従事している。趣味は「音楽鑑賞」

今回はゆうとおんうえーぶの松浦志津香さんです。松浦さんはこの4月から、ご本人の希望によりクッキー班へ異動し、現在は製菓の仕事に従事されています。また同時期、ガイドヘルパーさんのお出かけや、居宅介護ヘルパーさんと掃除や洗濯の練習を始めるなど、たくさん新しいことに挑戦中です。お話を伺ってみました。

学校時代の思い出
八尾支援学校(高等部)では野球部に入っていて、サードで2番でした。得意な科目は国語、特に四字熟語が好きでした。英語はちよっと苦手かな。

ここで、生きる 人シリーズ No. 18

ゆうとおんに来てからの事

ゆうとおんに来た頃は、クッキーや紙漉きの仕事をしました。クッキー作りは紅茶クッキーやココアクッキーを作っている時が楽しかった。うえーぶに来て紙漉き班に。メンバーさんと一緒に仕事をするのが楽しかったです。

最近、新しいことを始めました。

(紙漉き班からクッキー班へ異動)
異動してからすごく楽しい。昔、クッキー作りをしていた時のことを思い出す。やっぱり、紅茶クッキーとココアクッキーの生地作りが特に楽しいです。

(ヘルパーさんと掃除や洗濯をしています)

最初は難しかったけど慣れてきました。今は「もつときれいにしたい」と思っています。

(ガイドヘルパーさんとお出かけしています)

楽しい。古墳などの歴史について調べる資料館に行きたい。近くのスーパーでお菓子や飲み物を買ったりもします。

聞き手からコメント(阪上 明里)

4月からクッキー班と一緒に仕事をしています。何でも一生懸命作業をしてもらい頼もしいです。これからも、どんどんおいしいクッキーを作ってもらえたらと思います。

ゆうとおんでは現在、^{げんざい}食品製造としてパン・かりんとう・^{しょくひんせいぞう}クッキー作りをしています。メンバーさんが力を合わせ毎日^{ちから}がんばって作っています。^{まいにち}



はーと パン工房

パン工房は、現在「成形」作業に挑戦しています。パン生地にくりーむチーズやあんこを包んだり、チョコチップを包んで形を整える作業は、感覚を掴むまで時間がかかります。何度も挑戦して、失敗しながらも少しずつ上達し、パン職人への道を進んでいます。

ほーぷ かりんとう

ほーぷのかりんとう班です

ながび長引くコロナにも負けず、みんなでがんばって作業しています。

生地伸ばしは、作業の中でも一番の重労働ですが、「形のいいものをつくりたい!!」とみんな一生懸命!

今年は、緑茶セットが新登場! この夏は、氷水出し有機緑茶がサイコー! (^-☆

オリンピックをみながら、かりんとうポリポリなんて、どうですか?

かりんとう班一同おまちしています!!



ゆうとおん^{じまん}自慢の^{しょうかい}おいしいもんご紹介！！

うえーぶ クッキー

★^{こうてい}工程の順です。

その後、^こ鉄板の^{てっぱん}上で^{うえ}細かく^{こま}伸ばして^の焼^やきます。



ばち
すり鉢で、すっているのは粗糖。
しろ
みんな白くなるまで、さとうを根気
よくすっています。
“おいしくな～れ!!”



できあがり！



すていっく
「こまつなちーずスティック」は、
がつ がつ き せつげんてい くっ きー
6月～9月季節限定のクッキーです。

全体研修「高齢化対応を学ぶ」

2021年4月30日（リモート研修）

講師：医療法人 小憩会 さわらび診療所 精神科医 いながき 亮祐氏

☆稲垣先生より、ゆうとおん通信にメッセージをいただきました

「ゆうとおん利用者、そのご家族、職員、関係者の皆様、はじめまして。吹田市さわらび診療所の医師、稲垣 亮祐（いながき りょうすけ）と申します。今年4月30日に、ゆうとおん支援職員の皆さんとインターネットを通じての研修を受け持たせていただきました。

生活障害をこうむる方の高齢化の問題に、ゆうとおんの職員さんたちが心から真剣に心配され、悩み、考えておられるのを質疑応答の中でも、感じながら、僕は僕で、年齢を重ねる強みや、前向きに考えられる点もあるのではないかと思います。職員の皆さんに聞いてもらいました。

医学の話としては、あまり最先端でも専門的でもなかったと思いますが、職員の皆さんから「良かったよ」という反応もいただいて、とてもうれしかったですし、元気をもらえました。再度、お互いが励まし合い、刺激し合えるような、研修としての場を設けて頂けるとお聞きしており、とても楽しみにしています。」

参加したゆうとおんスタッフからの感想です

『稲垣先生のお話を聞き、おもしろい先生との印象を持ちました。私自身、認知症は悪く見てしまっています。誰もが感じていると思いますが、認知症にはなりたくない、迷惑をかけてしまう…。それに対して、先生は、「成長—変化—死」と話されていました。成長？。私の母も認知症で、今は進行したため、他人介護をお願いしています。長く、自宅で介護していましたが、成長というよりも、子どもに戻っていくように思いました。また、先生のお話のなかにもあったように、本人は「楽」になっているようにも思えました。しかし、福祉の仕事として、支援の軸を考え、寄り添って楽しく支援をしていきたいです。楽しく支援をすると、利用者にも伝わり、寄り添えるのだと私は思います。楽しい研修でありありがとうございました。』（裏家陽子）

『日々のかかわりの中で、Fさん本来の生活リズムがどうしたら取り戻せるのか、そればかり考えてきました。今日、稲垣先生の研修の話を聞くことで、少し心が軽くなりました。「成長はサイクル」、彼の今の変化は、彼が成長するためのステップなんだということを感じながら、これからFさんと向き合っていこうと思います。医療と福祉のできることは違っても、そのひと本人を知るために向き合うことのベクトルはいっしょであり、先生が言うように軸がしっかりとぶれないよう、支援を続けていきたいと思っています。』（古川晶子）

『「誰のための支援か？」「何のための支援か？」
「昔とは違ってきている＝日々、成長している」
現状を見ているつもりでしたが、「本人のいまを、しっかり見ているか？」「何をしてほしいと本人が思っているのか？」をこちらの都合で見えていたように思いました。こちらの思いの条件をはずして接していくようにします。Iさんのサポートの仕方をくわしく知りたかったのですが、左に傾くことは、クッションを作ったり、工夫を相談しながらしたいです。



食事のことや毎日安心して過ごしてもらうためにも、Fさん含めてスペースが必要なのは？今は、仕事をする場所で過ごしてもらっています。ほかのメンバーさんとのかかわりも大事だとは思いますが、「本人が何を今したいのか？」をすぐにわかってあげられる環境づくりをしたいと思いました。』（上仲恵子）

『稲垣先生の冒頭のお話にとっても感銘を受けました。「支援」のあり方をいま一度、考えなければと思いました。「業務」としての支援なのか、「支援のための支援なのか」。うまく言えないですが、「誰が主体」なのかを考えないといけないと思いました。また、相手（被支援者）にどれだけ興味を持てるか、知ろうとするプロセスを大切にしたいと思いました。認知症の見方が変わりました。ネガティブなイメージばかりでしたが、その方の本質は変わっていないこと、ここをわかることが大事だと感じました。』（越智邦行）

『誰のために支援するかをよく考えて、当事者優先で進めることが必要。これはあたりまえのことだが、もう一度、頭において行動していきたいと感じた。高齢化など、当事者が変化していくことを悪いことと見ずに、支援者側の考え方を変えてみる。たとえ本人に認知症の疑いがあったとしても、周りの見方が変化してしまっているのではないかと考えると違う現状が見えてくるかもしれない。認知症は病気ではなく、変化という考え方はこれまでしたことがなかったので、その考え方をすると見え方もかなり変わってくるのかなと思った。当事者の行動に興味を持ち、いろいろな関わり方を持てるよう考えていきたい。』(富森政輝)

『「何のため」、「誰のため」の支援なのか、という言葉聞いたとき、頭では常に利用者さんが主役とわかっていても、ときどき家族が主になっていないか？と自問自答してしまいました。家族の想いと利用者さんの想いは、いっしょでないことが多いです。その場しのぎの対応ではなく、家族とぶつからなくてはいけないのだなと感じました。認知症は成長と話されたとき、何を言われているのか理解できませんでしたが、成長するということは変化するということと聞き、なるほどな…と。変化することに対して困惑するのではなく、ありのままを受けとめる、簡単なことではないけれど少しずつ考え方をシフトチェンジしていこうと思いました。Nさんの健康法について、一度ご本人と同じことをやってみて、ご本人の反応を見てみたいです。考え方ひとつで認知症の受け取り方は変わるということを知れてよかったと思います。』(国本亜季美)

『事例検討会』

コロナ禍でなかなか対面や全体で集まる研修が難しい状況ではありますが、昨年度よりゆうとおんではコロナウイルスの感染状況をみながらビデオ会議ツールのZOOMを使って会議や研修を行っています。

ZOOMを使った研修でも講師の先生をお招きをしてお話を伺ったり、職員同士が意見を交わすグループワークもZOOMのツールを利用して実施しております。毎年実施している事例検討会ですが、3/27は、はーと食堂にて、2回目の5/27は、ZOOMにて開催されました。

1例目は職員対Aさんの距離感や関係性、言葉掛けの大事さを共有しました。2例目はゆうとおんに通所を始めてから数年で本人の変わりゆく環境の中で我々支援者がどうBさんに接していくかを焦点にグループワークで議論をしました。

- 当事者と支援者の関わりの中で、同じことをされてもそのように感じる人もいれば、そうでないと感じる人もいます。どんな小さな事でも、周りに相談することが大事だと思いました。話し合いを重ねることで、どういう方に支援をすればいいのか少しでもみえてくるのかなぁと思います。研修の中で支援の方法について学んだ“オープンダイアログ”は初めて聞いたので、もう少し勉強をしたいと思っています。

古川晶子

- 今回のAさんの事例で自分自身も勉強になり、もっと事業所自体も相談が出来る環境が必要だと思いました。相談された職員さんだけではなく、利用者の方やほかの職員の方と今回の新しい支援の方法として研修内で話し合った“オープンダイアログ”の研修をして、もっと確認をしていくことが大事だと感じました。

佐川武

●今回の事例は当事者間でクローズドにされてしまいがちな件であり、今回のように全体に出せたことはすごいことだと感じました。グループワークでは事例を出してくださった方もいて直接、話を聞くことが出来る個人的にはとても有意義でした。堀先生からオープンダイアログという新しい方法を聞くことが出来たのでとても良かったです。コロナ禍ということもあり、色々な職員の方と直接話す機会もないので今回の研修を通して他の方と感情や意見の共有が出来るのもっともっと話をして、よりよい支援に繋がればと思います。

はらだたかひろ
原田貴弘

●現在の問題にとらわれてしまう日々ですが、過去の本人、現在の本人、未来の本人と想像をして支援に取り組む必要があると、改めて感じさせられました。成育歴の重要さも痛感し、様々な面をきっかけに支援に繋がっていきけるチャンスを逃さないようにしていきたいです。わたしもどのように支援をすればよいのか困惑することが多々あり、報告者の方の苦悩がよく理解できました。何を優先してその方と接するのか、毎日試行錯誤しながら支援に取り組んでいます。すぐに答えが出るわけでもないため、職員間で情報を共有し、意見交換をする必要があると思います。そして堀先生の仰る「対等に向き合う」は、非常に感銘を受けました。焦らずにゆっくりとメンバーさんたちとの信頼関係を築き上げていければと思います。

まつおかともこ
松岡知子

●今回の事例検討会はグループワークでどんな話し合いが出来るのかと楽しみにしてまいりました。Bさん自身が少しずつゆうとおんに居場所を見つけていることや、周りの人たちとも関わる機会が増えてきていることを改めて確認することが出来、よかったと思いました。堀先生のまとめの中で、Bさんは「マイナスイメージばかりが目立っていた。」「周りから誤解されていた。」と話されているのを聞き、確かにそういう面もたくさんあっただろうなと思いました。Bさんの変化のきっかけにはいろいろな理由があったと思いますが、「出会った人(我々職員も)」1つのきっかけになっていると思うので職員という立場だけでなく、人として対等に付き合っていくという面を意識しながら関わりを続けていきたいと思いました。

くわのまさと
栗野真人

●事例を見て、Bさんは面白い方だなと思った。読めば読むほど、疑問も出てきて、ワクワクするケースだと思った。これからも様々な人と関わることで出会いを吸収して成長していく姿が楽しみだと感じた。グループワークで聞いた”人になってきている”という言葉が事例検討後も残っており、私の中で人との出会いで良くも悪くも変わることを再認識出来た。

くにちとあきみ
国本亜季美

●他者から理解されることで変われること、対等に向き合い、信じる重要性。頭ではわかっているけど実践になるとなかなか難しいですが、心がけていきたいと改めて思いました。過去、現在、未来の本人の事を考え、支援に当たっていかなければと思いました。

なかむら ゆみ
中村祐実

みんなできめるかい

2021年3月29日、みんなできめる会の役員選挙がありました。今回の選挙は、まず2020年度役員の皆さんから役員を務めた感想や考えたことを発表。次に立候補者1人1人が意気込みを発表。それぞれの思いを胸に、清き一票を投票しました！ 代表、副代表に選ばれた皆さんのインタビューです。

代表 徳山さん

前にもやったことがあるけど、もう一回やってみたいと思って立候補した。
『みんなできめる会』のみんなで旅行に行きたいです。和歌山とか。
遊ぶことをたくさん考えたい。

副代表 寺田さん

みんなの前で自分の考えてることを言えるようにするため、
立候補しました。今はリモートだけど、早くコロナが落ち着いて
パンジーの人と直接会いたい。

副代表 岩井さん

学生の頃も役員をしていて、昔も今も目立つのが好きだったから立候補しました。もっとみんなできめる会に入ってほしい。みんなが笑顔でいれるようにしたい。うえーぶ、はーと、ほーぶ、各事業所別々でもっと力をいれていきたい。

新しい会則が出来ました！

今年度より任期が2年になりました。2年間どうぞよろしくお願いいたします

最近の活動

コロナ感染拡大防止の為、5月のきめる会
は中止となり、6月からはオンラインで会議
を行っています。7月の『ピープルファースト
全国大会 in 兵庫』もオンラインでの開催と
なりますが、皆さん初めてのオンライン大会
を楽しみにしています。9月には
ピープルファースト大阪会議で『虐待』に
ついての学習会が行われます。ゆうとおん
が学習会をまとめる役を任せられました。
色々な人と勉強や意見交換が出来る
学習会になるよう話し合いを進めています。
コロナに負けず！ファイト・オ～！

(きめる会支援者：西村博子)

きめる会オンライン会議の様子



かんせんしょういいんかい
感染症委員会より

とみざわ く み こ
富澤久美子

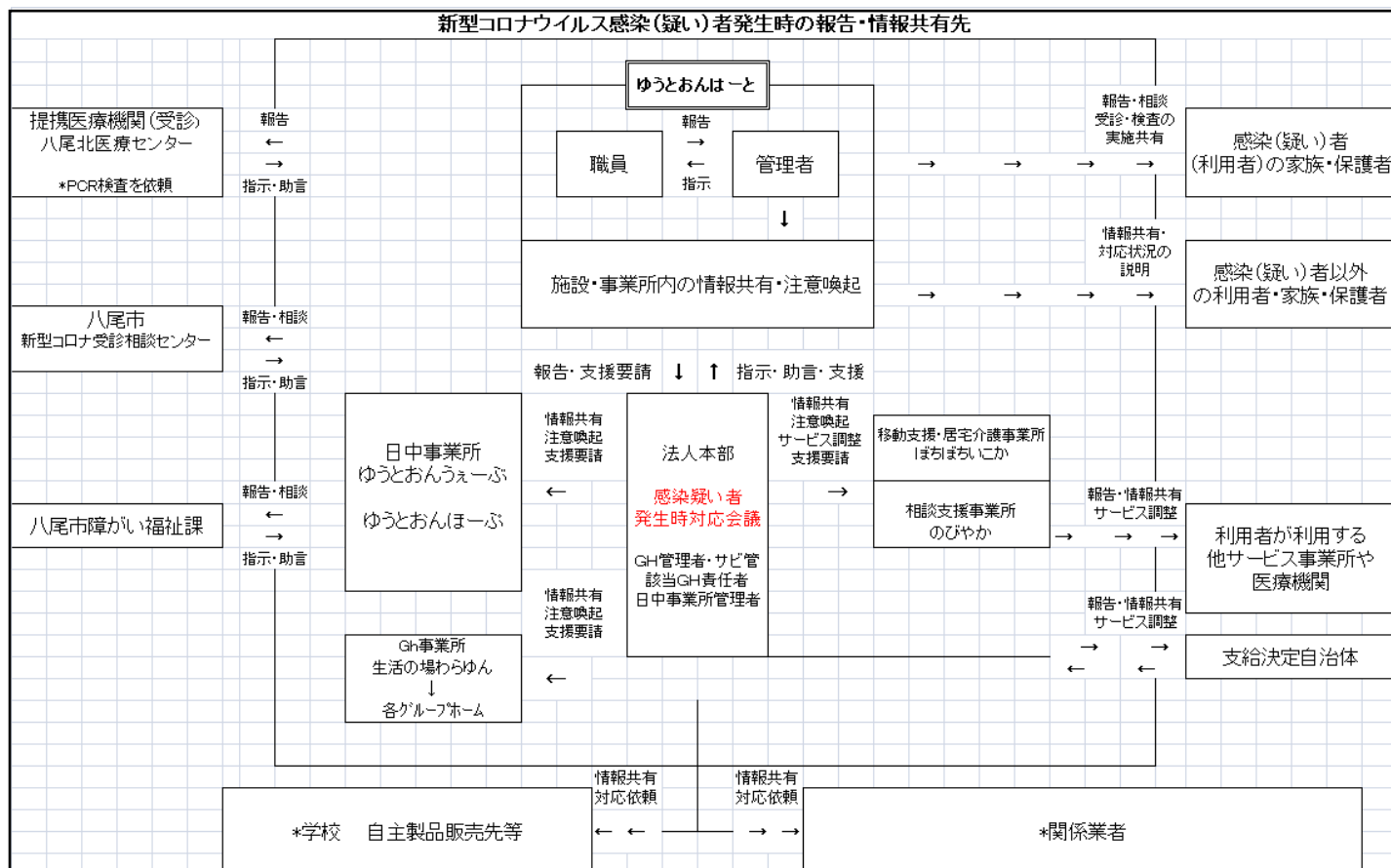
3度目の緊急事態宣言も解除され、まん延防止重点措置とやらに変わりましたが、確かに緊急事態宣言で、1日の感染者数は減ってはきたものの、どこで、「安心」と思える日常生活がもどってくるのでしょうか・・・

メジャーリーグの観客を見ると、ほとんどがマスクをしてなく、ビールを片手に楽しそうに騒いでいる。この違いは何？と思いつつも、昨年に引き続き、感染症委員会では、何度も何度も会議を開いています。感染者が出たら・・・検査を受けに行きましようという事態になったら・・・というところで話し合いをし、対策をしてきました。何ととっても『クラスターを起こさない』ための動きを考えます。他のクラスターになってしまった事業所の話を聴いたり、研修にも参加し、『初動が肝心』ということを知りました。そして家庭内感染が多いということと同じようにグループホームでの感染をどう防ぐのが大きな課題にもなっています。

委員会では、各グループホームでの感染疑い(体調不良等)の利用者さんが出た時点での体制を細かに決め、各職員に指示が出来る様にしたり、各ホームのゾーニングを前以って行い、日中職員も安全にホームへの応援に入れるようにしたり、また、防護服、ゴーグル、フェースシールドなどの備蓄と着脱の仕方を実際に練習したりもしています。また、グループホームに入居されている方にも、万が一、感染者が出た場合は、自宅での待機をお願いするなど、ご家族にも協力をお願いし、何とかクラスターは、阻止できるようにしたいと思っています。クラスター防止の初動には、日中作業所の一時休所も含まれます。そして、どこまでできるか、出来るかぎり、素早く、通常の運営ができるようにしなければならないと思っています。

コロナワクチン接種が進んで来ていると思いますが、職員、ご家族、利用者の皆で手洗い・うがい・消毒・換気・密を防ぐ・をしっかりと行い、各自の健康管理も重要だと思っています。

いま けん さいたいせい ととの けつ か はや 出る よう 今、だいぶん、検査体制は整い結果も早く出る様になっています。ただ、濃厚接触者の検査方法は、
だえき んりき さいしゅ ほうほう けつこう むずか でき りようしゃ おお 唾液を5ml採取する方法がほとんどで、これが結構、難しく、出来ない利用者も多いのではないかと思います。
びょういん によつては めんぼう などを ぎょく 下に入れる方法もあったり、検査方法も選べるといいのに…と思います。



「知的障害のある人への意思決定支援を考える」

堀 智晴（インクルーシブ（共生）教育研究所）



バリバラの「知的障害のある人の自立生活」（30分）を視聴し、グループ討論をして支援のあり方について考え合いました。堀なりに次の3点にまとめさせていただきます。

1、自分の暮らしをした時の ”ときめき”

バリバラのDVDに登場した二人の当事者の言葉が印象的でした。親元から離れて初めて自立生活をした、けん太さんは、「俺は自由だ！世界は広い」と書き、元治さんは「出会い」と書きました。

グループ討論の中で、当事者がグループホームの自分の部屋に入り生活を始めたとき、その人の”ときめき”のようなものを感じたという話がありました。自立生活は不安ですが、わくわくドキドキする＜自分の生活＞の始まりなのです。これは自立生活のすばらしさを感じさせる原感情（感情の根っこにあるもの）のようなものだとい私は感じました。

私も、東京で4畳の狭い下宿で生活を始めたとき、一人になって天井を眺めながら無性に嬉しくてしょうがなかった時のことを思い出しました。

2、知的障害のある人は、小さいときから自分の気持ちや意見を尊重されてこなかった

知的障害のある人は自分で考えて生活するのが困難、できないという前提があるので、自立生活なんて無理、できない、という考えが前提になっている、という意見が出ていました。

これからは、＜できない話＞として考えていくのではなく、＜できる話＞として支援する人は取り組んでいくことが大切だということにも気づかされました。

3、当事者より優位な立場にある職員

職員と当事者の立ち位置を考え直してみると、職員の方が優位な立場に立っていることを決めているのではないかと、ということが分かります。これを見直す必要があるということも、今回の研修会で大事な意見です。この＜職員の優位性＞をこそ問い直す必要があるのではないのでしょうか？

今回の研修会を行ってみて、次は是非当事者の人々と学習会をしたい。そのときにも今回のバリバラのDVDを見て話しあいたいと思います。



当世作業所事情83

〜仲良くしたいが迎合したくない〜

畑健次郎

昨年12月の初め頃、ゆうとおんに通所しているSさんのお母さんから「家に寄ってもらえませんか」と連絡がありました。

末期がんのYさんは死期が近いことを悟っているようでした。

「Sのことをよろしく願います」と弱々しいけれどしっかりと口調でした。

「Sくんはだいじょうぶですよ」と頼りなげに応じている私です。

それから何日も経たないうちに緊急入院したYさんは、新年を迎えることができませんでした。

ワンルームマンションの部屋はSさんの弟さんが引き継ぎました。その弟さんも急に転居し、6月末で部屋を明け渡すことになりました。

残された荷物を処理するために、市役所の担当部署に連絡しました。説明では引越等で、一般ごみで出せないものは、係官のいる指定されたところに持ち込めるようになっていました。

電話口に出た女性職員は「ご本人ですか」と聞きます。私は「いえ、知り合いです。お母さんが亡くなったので、息子さんと一緒に後片付けしています」と答えます。

「どういう関係ですか」

Sさんが作業所に通所していること、その職員であることを告げます。

しばらく待たされてから、意外な答えが返ってきました。

「本人（息子であるSさんのこと）が運転してこなければ受け付けできません」と言います。

「本人は運転免許証を持っています。運転は私になります。本人も同乗して身分証明書も持っています」

先方は少し困ったようで、またしばらく待たされます。

今度は男性職員が出てきます。

「本人が運転してこなければだめです。ホームページの案内を見てください」

言われた通りホームページを開きます。そこには「運転免許証などの身分を証明するもの」となっています。

「運転免許証などと、なっているではありませんか。私の運転免許証とSさんの身分を証明するもの（療育手帳）を持っています」

「いいえ、本人が運転してこなければだめです」

「本人が運転してこいとは書いてないじゃないですか。第一、どうしても本人が運転してこなければだめだというなら、運転免許証などという書き方はしません。当人の運転免許証を提示すること、という表現になるはずですよ」

担当者のNさんは一歩も譲りません。

「表現が悪いのなら内部で検討しますが、本人の運転でなければだめです」

「それではなぜそういう結論になるのか、検討した内容と結果を私の方へ知らせてもらえますか」

「いえ、それはできません。廃棄物の処理に関しては他の方法もありますから、そちらを利用してくださいますか」

「他の方法も検討しますが、これではせっかく制度があるのに、運転免許証を持っていない人への社会的差別ではないですか」

差別という言葉には敏感に反応します。

今までよりも少しトーンが高めの声で、Nさんは「私は差別主義者ではありません」と言います。

「あなた個人のことを言ってるんじゃないくて、運転免許証を持っていないというだけで、市民として当然受けられるはずのサービスが受けられないのは社会的差別だと言ってるんです」

Nさんは「私は差別主義者ではありません」と繰り返します。

「いや、あなた個人のことを言っているんじゃないくて、言いながら私は予定されている会議の時間が迫っていることが気になります」

自分は他人を差別したことはないという思い込みによる自負心と、役人としての自己保身で身を固めるNさん相手も疲れてきました。

Nさんの身になれば、訳の分からないクレーマー相

手（私は名前を名乗っていますが）に、弱みを見せ
てなるものかというところだったかも知れません。

国のトップの無責任な発言に沿うように公文書の
改ざんも辞さず、問答無用で結論だけを押し付けて
くるのがこの国の公務員の平均的な意識水準になっ
ていくのでしょうか。誰に「奉仕」するつもりなの
かと危惧します。

生活の場わらゆんが運営しているグループホーム
は6か所ありますが、自前が3か所、集合住宅に間借
りしているホームが3か所です。
そのうちの1つが府営住宅です。

私はURに住んでいます。建物のつくりや間取
りはよく似ています。一番の違いは（たまたまか
も知れませんが）自治会のありようです。私の住ん
でいる団地の自治会はいいも悪いもゆるい感じで
す。

それとは対照的にグループホームのある府営住宅
の自治会は存在感があります。どちらがいいのか比
べようというわけではありません。私の住んでいる団
地では多分起きないようなことが、ホームのある団
地ではよくあります。

グループホームには、当事者の生活を下支える
ために世話人が出入りします。

できるだけその住人と仲良くとは思っています
が、自治会の役員の一部のみなさんからしたら、迷惑
なよそ者なのかも知れません。

まず自治会長から「世話人はグループホームの人
間だとわかるように名札を付けるように」とのお達
しがありました。波風立てたくないの、「わかり
ました」と応じます。

やがて顔見知りになります。時には「名札が見
えにくい」とおしかりを受けます。

それでもこの程度は笑って済ませられる範囲です。

ある時、自治会長が訪ねて来ました。
この時、最初に應對に出たのが、当事者である入居
者のUさんでした。自治会長は世話人に「これか
らは、最初から世話人が出てきて應對するように」
と告げます。

この話を聞いて、さすがに気の弱い平和主義者
（？という人もいますが）の私もカチンときて、他
の要件のついでに自治会長に抗議しました。

「あなたがたと同じように家賃を払って住んでい
る住人に向かって、なんて失礼なことを言うのか。
あなたにそんなことを命令する権利があるのか」

もう電話を切ったがっている自治会長に向けて
私は抗議を続けました。これには自治会長も閉口し
たようで、以降、用事があっても私に直接連絡がく
ることはありません。

後日、自治会の集まりに出ることがありました
が、その時は普通に接してくれました。

先のNさんも自治会長も個人的には気のいい人

かも知れません。生真面目そうなNさんも、角度を
変えれば面倒見の良い自治会長のIさんも、この国
の多くの人たちと同じように、そんなたいそうな野
心もなく、できることなら周りの人たちと楽しみを
分かち合って、おだやかに人生を全うしたいと願っ
ているはずで。

何のためのルールかと問うことなく、「無知な市
民」に、ルールを教えているつもりで公務員や、無
意識だらうけれど、自分の方が偉いと思って接して
くる自治会役員も、どこにでもいる庶民の一人で
す。

そんな人たちが、否応なく広がっている「差別」
の海を漂いながら、社会的に弱い立場の人たちを追
い詰めるのも日常茶飯事です。かくいう私も日々の
生活や、生きてきた過程で自分に刻印された意識の
中で同じような轍を踏んでいます。

たとえ生きるための方便であつたとしても、民衆
が権力者に対して、迎合を競いあうようになった
時、私たちの社会はますます息苦しくなっていきま
す。

それがどんなに小さな権力であつたとしても、時
々は不服従の意思を示しておかねば、自分が何をし
たいのか、人とうい関係結びたいのか、自分
がだれなのかさえ、わからなくなってきました。

Sさんはグループホームで暮らしながら、元気に
通所しています。



大きくなあれ～



ビオトープだより



ひとやすみ

なすび、ピーマン、きゅうり、ミニトマト、いちご、さつまいもを育てています。

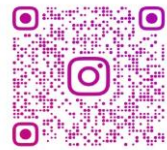


Instagram

はじめました！

いろいろなことを発信していきたいと思しますので、フォローよろしくお願いします！

QRで簡単フォロー♪



YOUTONE_OFFICIAL

リレーエッセイ NO.7

リレーエッセイ再開です。テーマは指定なし。さて、何を書こうか。最近、私は地球の今後を考える。というより、子どもたちの未来を考える。2030年までの我々の対応で地球の未来が決まるのだとか。食材は捨てない。電気はできるだけ節約。ゴミも分別。物は極力持たない、捨てない。車の使用は控える。洗剤関係は無添加で。などなど、できることはしたい。自分で出来ることはコツコツと。

新型コロナウイルスも地球の悲鳴ではないかを感じる。2004年の映画、「デイ・アフター・トゥモロー」は地球温暖化による異常気象現象をテーマとしていた。当時の私は特に何も考えず、異世界の話のように感じていた。しかし、大雨、嵐、大火事など、実際に異常現象が起きている。映画のような事態は今にも起きるのではないだろうか。

子どもに勉強しろと(以前よりは)言わなくなった。勉強して、いい学校へ行き、いい会社に入る。何のために？今の時間を割いて見えない将来に備えるより、今を楽しく生きて欲しい。私たちの今の行動が子どもたちの未来を変える。何を残してあげられるだろうか。そう思うと、私は日頃の自身の生活を問い直す。

完璧にはできなくとも、できることを少しだけ頑張りますか。原稿を通じて多くの方に同じことを考えていただければと思う。あなたの今の生活を続けることで、未来の地球は守れますか。少ししかこうつけてみましたが、せっかくのチャンスなので発信してみました。

桃井百合

社会福祉法人 ゆうとおん

本部 / 〒581-0834 八尾市萱振町 2-133 TEL 072-993-0785 FAX 072-993-0784
 ゆうとおんはーと / 〒581-0834 八尾市萱振町 7-68-1 TEL 072-926-6200 FAX 072-926-6199
 ゆうとおんうえぶ / 〒581-0817 八尾市久宝園 2-30-4 TEL 072-926-1543 FAX 072-921-8883
 ゆうとおんほーぶ / 〒581-0834 八尾市萱振町 7-73-2 TEL 072-927-1300 FAX 072-927-1301
 スタコハウス / 〒581-0802 八尾市北本町 1-1-11 TEL 072-995-4387 FAX 072-995-4387
 メールアドレス / youtone@live.jp ホームページアドレス <http://www.eonet.ne.jp/~youtone>
 年会費 / 1口 2,000円 振込先 / 郵便為替口座 00910-9-106532

発行人 / 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4階 定価 / 50円